

2023.05.11. 木曜礼拝 終わりを指し示す預言的類似性

エゼキエル 9～11 章

JD ファラグ牧師

アーメン、アーメン。皆さんこんばんは。どうぞお座りください。今夜はいかがお過ごしですか？ 祝福されていますか？ よし、良かったです。今夜は3章分です。だから私は皆さんに、今夜はいかがですかと尋ねたんです。前にも同じようなことをしたよね？ 今夜は3章立てでやるので、その前に体温を測っておこうと思っただけです。だから、パジャマと歯ブラシは持ってきてくれましたか？ — (笑) — 私たちはこれをやりましょう。私はこの3つの章と一緒に取り組むことにしました。というのも、実は、8章から始まる、神がエゼキエルに与えたこの幻の続きであるからです。神がエゼキエルに与えたこれらの幻は、当時バビロンに捕らわれていたエゼキエルを超自然的な方法で移動させることによってもたらされました。神は超自然的な領域で、エゼキエルをエルサレムへ、エルサレムにある神殿に連れ戻されました。懐かしい場所に戻ってきたようです。非常に興味深い方法で、エゼキエルに多くのことを見せられます。今夜、私たちが見ようとしているのは、終わりの時の神の裁きを痛烈に指し示す、他の預言との類似性が散りばめられていることです。今夜私たちが見ようとしているのは、終わりの時の神の裁きを痛烈に指し示す、他の預言との類似性が散りばめられていることです。イエーイ... — (笑) —

取り急ぎ言うなら、この章で見えてくるのは、そしてこの章を読み進めていく上で、こう言わせてください。私も含めて私たち全員が、特に私はそうかもしれませんが、この章を、私たちが知っている人類史の最後の時、終わりの時というレンズを通して見ることを望み、祈り、思います。このような多くの類似点を目にするようになりますが、それは私たちの時代、こんにち、私たちが生きている世界、終わりの時を、非常に力強く、深く指し示しています。

では祈りましょう。私たちが共に過ごす時間に神に祝福をお願いしましょう。よろしければ、ご一緒に。天のお父さま、感謝します。主よ、カポノが祈ってくれたように、これは私たちの時間です。私たちはこの時間が本当に必要です。私たちはそれをとても大切にしています。私たちが信者の体として集まり、礼拝し、交わることができる時だからです。主よ今、あなたの御言葉の教えとあなたの御言葉を聞くこと、あなたの御言葉を心に留めます。あなたの御言葉に、私たちが見るべき目で見聞くべき耳で聞くのを望まれていることが、ここにたくさんあります。主よ、あなたがいつものように、私たちにしてくださることを期待しています。私たちは、自分の心が彷徨い、気が散ってしまうことを素直に認めます。どうか敵にそうさせないでください。聖霊によって私たちを集中させ、今夜あなたが私たちのためにご用意してくださったものを見落とさないようにさせてください。

主よ、私たちは本当に大きな期待を持って、聖霊の静かな小さな御声で語ってくださるのを待ち望んでいます。あなただけがお出来になるように、私たちを集中させ、集中を保たせてください。あなたのしもべは聞いているからです。ですから主よ、お語り下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

では、9章1節に入りましょう。

—エゼキエル 9:1—

この方は私の耳に大声で叫ばれた。「破壊する武器をそれぞれ手に持った、この都を罰する者たちを連れて来い。」

—エゼキエル 9:2—

見ると、六人の男が、それぞれ打ち壊す武器を手に持って、北に面する上の門を通過してやって来た。…

...もう一人の人が、亜麻布の衣をまとい、腰には書記の筆入れを付けて、彼らの中にいた。彼らは入って来て、青銅の祭壇のそばに立った。

ところで、エゼキエルは、当時まだ残っていた神殿の構造を熟知していたはずで、まだ破壊されていませんでした。後に破壊されます。彼は、神殿で祭司を務めるための訓練を受けていたことを思い出してください。そして彼は今、30歳で、自分が訓練を受けていた神殿、祭司の務めを果たしたはずの神殿に連れ戻されています。彼は20歳で訓練を始め、バビロンに捕囚されます。それが20代半ばと信じられており、今は半年ほど経過して、彼はエルサレムに連れ戻されています。神は、ある意味、彼に「何が起こり得たか」「何が起こったか」を示しておられます。エゼキエルは、たとえそれがバビロン捕囚だったとしても、自分を取り除き、移し替え、根こそぎにされた神に感謝していると私は思います。というのも、もし残っていたら、彼は直接目撃し、恐らくそのことを語るため生きてはいなかったでしょう。彼は、神の預言通り、エルサレムに迫り来る滅亡を直接目撃したことでしょ。私が、そのことを挟みたかった理由は、再度、自分も含めて思うのは、私たち全員が、あまりにも早くその箇所から自分自身を切り離してしまうからです。私たちは神の御言葉を読んでいても、そこに、この断絶と呼ぶものがあり、すべての背景にあるものが見えてこないからです。私たちは、この若者、エゼキエルの感情を軽視し、断絶しているとさえ言えるでしょう。このことが彼にとってどんなことだったのか、これから起こることを目の当たりにして、どんなに辛い思いをしたことでしょうか。この幻は、彼の愛するエルサレムに、エルサレムにまだ建っている神の聖なる神殿に、何が起こるかを示します。それを見落としたり、軽視したりしないでください。

—エゼキエル 9:3—

ケルビムの上にあったイスラエルの神の栄光が、ケルビムから立ち上り、神殿の敷居へ向かっていた。腰に書記の筆入れを付け、亜麻布の衣をまとっている者を呼び寄せて、

—エゼキエル 9:4—

主は彼にこう言われた。「都の中、エルサレムの中を行き巡り、ここで行われているすべての忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々の額に、「しるし」をつけよ。」

わお…これが最初の預言の類似点です。それは、7年間の患難時代に、144,000人が額にしるしを受ける「黙示録7章」を指します。これは、この預言的な類似点が、その当時、文字通り成就したのですが、文字通りこれから成就する将来のことでもあります。では、この「しるし」とは何でしょうか？ 非常に興味深いです。ここからが、本当に面白いところです。額につけるこの「しるし」は、ヘブライ文字の「T」または「タウ」で、十字架の形をしていました。額に刻み、特にため息をつき、泣き、嘆き、心を痛め、壊れ、打ちのめされた人々を封印しました。何に？ 神殿の中で行われていた忌まわしいことのためです。彼らは非常に嘆いていました。神は、この額にしるしを持つ者を特別に守るために、このしるしをつけさせました。「獣のしるし」に似て聞こえますね？ では、これを理解してください。サタンは偽造者です。私たちは、獣のしるしにとらわれすぎているように思います。獣のしるしは、実は神のしるしの偽物であり、偽造品なのを忘れています。考えてみてください。よく考えてみましょう。なぜなら、この144,000人はしるしをつけられ、彼らは額にしるしを受けます。それは獣のしるしではなく、キリストのしるしです。しるしを受けた者に何が起こるのでしょうか？ 何も起こりません。このしるしではなく、獣のしるしを受けた人たちには何が起こるのでしょうか？ (ひ~~~~) すべてが起こります。

ここで、もう一つ。先週、偽物が本物を証明するという話をしましたが、少なくとも、黙示録13章のし

るしが黙示録 7 章のしるしの後にあることを指摘しなければ、大失態になると思います。深い意味があると思いますが、7 は 13 の前に来ます。神は、まずこの 144,000 人にしるしをつけられます。そのしるしで封印されているため、彼らには何も起こりません。これはイスラエルの民の戸口に子羊の血で十字架の形をしたしるしをつけたことを彷彿させます。すると、死の御使いが彼らの上を過越し、彼らは救われ、助かります。それが「しるし」です。このしるしもそうで、当時の彼らにとっても真理です。エゼキエルは、それぞれため息をついて泣く人たちの幻を示されました。これ好きです。カポノ、分からないけど、これは歌になるかもよ？ 言ってみただけだけど。神殿で行われた忌まわしいことのためにため息をつき、泣きました。

#### —エゼキエル 9:5—

また、私が聞いていると、ほかの者たちに主はこう言われた。「この者の後について都の中を行き巡って、”打ち殺せ”。あわれみをかけてはならない。惜しんではならない。

#### —エゼキエル 9:6—

年寄りも、若い男も、若い娘も、幼子も、女たちも殺して滅ぼせ。しかし、しるしが付けられた者には、だれにも近づいてはならない。まず、わたしの聖所から始めよ。」そこで、彼らは神殿の前にいた老人たちから始めた。

もう一度、これに関してご辛抱ください。なぜなら、ここには 2 つ目の預言的類似点があるからです。いくつかあります。皆さんはもっと見つかるかもしれませぬ。それは素晴らしいです。でもここで私が見つけたのは、一読しただけではなかなかわからないものです。これは、神の家/家族で裁きが始まるのが終わりの時を示すという点で、あえて言えば、居心地の悪い預言的類似点であり、不人気な預言的類似点でさえあります。これを覚えておいてください。というのも、これは第一ペテロ 4 章 17 節だからです。私たちは、第一第二ペテロの手紙の学びを終えたばかりです。第一ペテロの手紙、4 章 17 節をお聞きください。

#### —I ペテロ 4:17—

さばきが神の家から始まる時が来ているからです。それが、まず私たちから始まるとすれば、神の福音に従わない者たちの結末はどうなるのでしょうか。

ここで 2 つほど。まず、私たちの文化的な理解で見落とししていることを、ここで明らかにしたいと思います。それは「house/家」という言葉に関係します。その頃の中東では、そしてそれは、現代でも本当に変わりませんが、「～の家」というのは、建造物や建物のことではなく、家族のことです。私が子どもの頃、親戚一同が私たちの家に来て夕食をとっていた時、アラビア語でこんなことを言うのです。(□○▲◆X● アラビア語) その意味は、「ワヒドの父の家族、家に行く」「その家族の元へ行く」別の例えです。このことが少しでも理解になることを願います。どうか、聖霊様、このことを少しでも理解できるようにしてください。サウジの家族は、「サウジの家」と言います。家ではありません。サウジの家族のことです。サウジの家：サウジの家族 (□○▲◆X● アラビア語) サウド：家または家族。

第一ペテロの手紙 4 章 17 節を読む時、神の家を、神の教会として見てはいけません。「神の家族」です。なぜなら、これは主の家ではないからです。これは主の家ではなく、私たちが主の家です。私たちは聖霊の宮です。私たちは聖霊を宿しています。私たちは神の家族です。ですから、私の家族、私の民、兄弟姉妹、神の家族、神の子どもたちの中で裁きが始まります。そうすると、少し印象が変わりますよね？

神の家というとなんだか、一般的な感じがします。「裁きは神の家から始まる！」私たちはすべてにう

なり声を入れます。しかし、「わたしはこの裁きをまずわたしの民、わたしの聖所から始める」と神が仰ることを理解すると、その最後が分かりましたか？ 6節をもう一度さっと読んでみましょう。

「老人たちから始めた。」う〜...だから私は心地悪いのです。なぜなら、長老、教師、牧師は、ヤコブの言うように、より高い基準で、より厳格に裁かれるからです。(ヤコブ 3:1)

「そこからわたしは始めます。」さて、これが私の話の向かう先です。これを言うために、このことをお話ししました。今、それが起きていると思います。そう思いませんか？ 今すでに、神の民に対する神の裁きの重い御手が、長老、牧師、指導者たちから始まっているのだと思います。神の民、神の家族に、神の重い御手が下るのです。あえて言うなら、ここ3年あまりの間に、私たちはこのようなことを経験しました。今回も、非常にこれが心に響きます。私はそれを見てきました。ふるい分けのようです。切り離しではありません。雑草から草を取るということではありません。これらは兄弟姉妹であり、神の子どもたちです。信者たちです。彼らは神の家族の一員です。しかし、神は家族の外へ向かう前に、ご自分の家、ご自分の家族を整えようとしておられるようです。ペテロが書いているように、それは私たちから始まります。もしそれが私たちから始まるのであれば、私たちではない人たちがどうなるのか、想像できますか？ でも、それは理にかなっていませんよね？ それは神がどなたであられるか、神がどのようなお方であるかということと一致するのではないのでしょうか？ テトスやテモテのような牧会書簡に、長老の資格についてが愛情を持って言及されています。彼らは自分の家を整えなければならず、家族を整えなければなりません、なぜなら、自分の家族を導くことができない人は、神の教会を導くことはできないからです。(1テモテ 3:5)

基本的に失格です。なぜなら、家庭でリーダーシップを発揮していないのに、どうして教会でリーダーシップを発揮することが期待できますか。家が整っておらず、家族が整っていないなら 秩序が乱れているなら、不適格です。なぜなら、神のなさることはすべて正しく、秩序正しく行われるからです。そうあるべきです。ちょっと踏み込んでいますが、必要なことかもしれません。忍耐くださるようお願いしたのはこのためです。これに関して少しだけ、さっとお話しします。この神が定められた権威構造は、そのため、神は今、ご自分の民に裁きを下しておられると私は信じます。その最たるものが、神の教会の牧師や長老、指導者として、(こう言う言い方をお許してください)神に与えられた権威を放棄した指導者たちです。神はそれに対処されなければなりません。整えなければならなりません。今や無秩序が常に続くからです。なぜなら、権威構造は接着剤で、そのおかげで、すべてのものが保たれます。神の祝福が湧き出る泉から外れると、混沌とした無秩序しか生まれません。どうりで、なぜ、たぶんきつとこんにちのイエス・キリストの教会がこういう状態なのかは一目瞭然です。日曜日に、私が説教するのは...3つの章に取り組みないといけないのに、、、、 そんなこと止めてください。(笑) また別の機会の話題かもしれませんから、このファイルをすぐに閉じて、次に進みましょう。

強いて言うなら、これはあなたに壊せない原則の一つで、それがあなたを壊します。あなたがそれに立ち向かうなら、良い結果になり得ません。神がその秩序構造を定められました。あなたがそれに従わなかったり、その責任を放棄したりすると、神はご自分の家を整え、ご自分の家族を整えなければならなりません。だからこそ、「わたしの聖所から裁きが始まる」と、主は言われるのです。「長老たちの中から、わたしの家族から始まる」と主は言われます。

—エゼキエル 9:7—

それから主は彼らに言われた。…



少し、生々しくなっています。

...「神殿を汚し、庭を刺し殺された者で満たせ。さあ、行け。」彼らは出て行って、都の中で打ち殺した。

—エゼキエル 9:8—

彼らが打ち殺しているとき、私（エゼキエル）だけが残された。私はひれ伏して叫んだ。「ああ、神、主よ。あなたはエルサレムの上にあなたの憤りを注ぎ出し、イスラエルの残りの者たちを、ことごとく滅ぼされるのですか。」

エゼキエルは、このすべてを見せられ、胸が締め付けられていることを理解せねばなりません。

—エゼキエル 9:9—

主は私に言われた。「イスラエルとユダの家の咎は非常に大きく、地は流血で満ち、都も不正で満ちている。彼らは『主はこの地を見捨てられた。主は見ておられない』と言っているのだ。

—エゼキエル 9:10—

だから、わたしもあわれみをかけない。わたしは惜しまない。わたしは彼らの頭上に彼らの行いを返す。」

—エゼキエル 9:11—

そのとき、腰に筆入れを付け、亜麻布の衣をまとった、あの人がこう報告した。「私は、あなたが私に命じられたとおりに行いました。」

この章の最後は、私が最終報告と呼ぶもので終わります。あるいは、最後の説明とでも言いましょうか。なぜこれを強調するのかというと、神が仰ったのなら、それで決まりだからです。言われたことがなされました。「私は、あなたが私に命じられたとおりに行いました。」完了です。報告されています。ここにその記述があります。10章1節。

—エゼキエル 10:1—

私が見ていると、ケルビムの頭上の大空に、サファイアのような、王座に似たものがあり、それがケルビムの上に現れた。

—エゼキエル 10:2—

主は亜麻布の衣をまとった者に命じられた。「ケルビムの下にある車輪の間に入り、ケルビムの間の炭火をあなたの両手に満たし、それを都の上にまき散らせ。」この人は私の目の前でそこに入って行った。

—エゼキエル 10:3—

その人が行って行ったとき、ケルビムは神殿の南側に立っていて、雲がその内庭を満たしていた。

—エゼキエル 10:4—

主の栄光がケルビムの上から上り、神殿の敷居に向かった。神殿は雲で満たされ、また、庭は主の栄光の輝きで満たされた。

—エゼキエル 10:5—

そのとき、ケルビムの翼の音が外庭にまで聞こえた。それは、全能の神が語られるときの声のようであった。

—エゼキエル 10:6—

主が亜麻布の衣をまとった者に...

私はぜひこの男を見てみたいです。すばらしい人なはずですよ？

—エゼキエル 10:6—

主が亜麻布の衣をまとった者に「...火を取れ」...（この火を覚えておいてください）...「車輪の間、ケル

ビムの間から火を取れ」と命じられると、この人は入って行き、輪のそばに立った。

—エゼキエル 10:7—

すると、ケルビムのひとりがケルビムの間から、ケルビムの間にある火の方に手を伸ばして、その火を取り、亜麻布の衣をまとった者の両手にそれを盛った。この人はそれを受け取ると、出て行った。

—エゼキエル 10:8—

ケルビムの翼の下には人間の手の形があった。

—エゼキエル 10:9—

私が見ると、ケルビムのそばに四つの輪があり、…

これは1章と酷似して聞こえます。それは、1章に酷似しているからです。同じ幻です。

…ケルビムのそばに四つの輪があり、一つの輪は一方のケルビムのそばに、もう一つの輪はもう一方のケルビムのそばに、それぞれあった。その輪は緑柱石の輝きのように見えた。

—エゼキエル 10:10—

それらの形は四つとも同じで、一つの輪がもう一つの輪の中にあるようであった。

—エゼキエル 10:11—

それらが進むとき、それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。なぜなら、頭が向かうところにほかの輪も従い、それらが進むときには向きを変えなかったからである。

—エゼキエル 10:12—

それらのからだ全体と、その背、その手、その翼、さらに輪、すなわちその四つの輪には、周りに目がたくさん付いていた。

—エゼキエル 10:13—

私はそれらの輪が「車輪」と呼ばれるのを聞いた。

当たり前のことのしっかり把握ですね。

—エゼキエル 10:14—

それぞれに四つの顔があり、第一の顔はケルビムの顔、第二の顔は人間の顔、第三の顔は獅子の顔、第四の顔は鷲の顔であった。

—エゼキエル 10:15—

そのとき、ケルビムは飛び立った。それは、私がかつてケバル川のほとりで見た生きものであった。

彼はまた繰り返しています。

—エゼキエル 10:16—

ケルビムが行くと輪もそのそばを進み、ケルビムが翼を広げて地上から上るとき輪もそのそばを離れず、向きを変えなかった。

—エゼキエル 10:17—

ケルビムが止まると輪も立ち止まり、ケルビムが上ると輪も一緒に上った。生きものの霊が輪の中にあつたからである。

—エゼキエル 10:18—

主の栄光が神殿の敷居から出て行って、ケルビムの上にとどまった。

—エゼキエル 10:19—

すると、ケルビムは翼を広げて、私の目の前で地上から上って行った。…

エゼキエルは、今このすべてを見えています。

...出て行くとき、輪もそのそばについて行き、主の宮の東の門の入り口で止まった。イスラエルの神の栄光が彼らの上にあった。

—エゼキエル 10:20—

彼らは、かつて私がケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見た生きものであった。私は彼らがケルビムであることを知った。

—エゼキエル 10:21—

彼らはそれぞれ四つの顔と、それぞれ四つの翼を持っていた。その翼の下には人間の手のようなものがあった。

—エゼキエル 10:22—

彼らの顔かたち、それは、私がかつてケバル川のほとりでその容貌と姿を見たとおりの顔であった。彼らはみな、前の方へまっすぐに進んで行った。

これで10章は、エゼキエルの幻が「ヨハネの黙示録」の4つの生き物に対しどのように終わるかを示すもう一つの預言的類似点で終わります。それについて、簡単に説明させてください。1章では、このことを深く掘り下げて説明しましたね。ヨハネに与えられた啓示の中で、この4つの生き物と同じものがあります。この4つの顔を持つ4つの生きものの姿は、4つの福音書の力強い、深遠な、預言的描写で、また十字架の形をしています。キリストの十字架が至る所にあります。それほど力強い預言的描写です。

そして神は、エゼキエルにこの幻を、この啓示を与えておられます。なぜでしょう？ 私たちが話してきたとおり、エゼキエルがこれを必要とすることを知っておられるからです。エゼキエルは、神に召されたことを乗り越えるために、これが必要なのです。神は、エゼキエルのために用意しておられるもののために、エゼキエルを備えておられます。ここから先が本番です。すぐに分かります。ええ、来週には。

ネタバレです。12章で、非常に興味深いことになります。エゼキエルは、今度は、基本的には最前線に立ち、視覚的預言をするからです。彼は、目と目を合わせ、腹と腹を合わせます。私みたいだとさらに腹と腹が、ね。あざける者、馬鹿にする者、民にバビロンでこう伝えている偽預言者たちに対して、

「さあ皆、家を買わず、子どももつくり、定住しすぎないように。私たちはここに長くはいないから。」  
待って、待って、待ってください。エレミヤが40数年間言いました。

「いや、私たちはここにしばらくいることになる。実際、私の年齢では、もう二度とエルサレムを見ることはない。」

エゼキエルは、エルサレムを見る必要があり、神は彼をエルサレムへの往復の旅に連れ出されました。彼はそれを見なければなりません。聞くところによると、見たくないのです。しかし、これらの偽預言者は皆、バビロンに捕らえられた人々に言っていました。

「エレミヤに耳を傾けるな。」「エゼキエルに耳を傾けるな。」「ダニエルにも耳を傾けるな。」エゼキエルは今、エルサレムが滅ぼされるという真理を説き、真理を預言するため、この召命を与えられているからです。

「あなたがたはもう戻れない。仮に戻ったとしても、戻るべき場所はない。というのも、時間の問題で、燃やされてしまうから。火で焼き尽くされる。」

これもまた別の、預言的類似点です。これもまた「ペテロの手紙」と一致します。神の裁きの最初の滅ぼしは、洪水で、もう二度とありません。今度は、火によるもので、それは元素を溶かすほどの熱を持った

激しい火であり、火によって滅ぼされます。(Ⅱペテロ 3:6,7)

預言的類似の描写、型で、エゼキエルはこれを見せられました。なぜか？ なぜなら、エゼキエルがこの戦いの真っ只中に身を置く時が、そう遠くない内にやってくるからです。彼はこれを預言し、そして、それが実現します。それが起こります。バビロンの捕囚たちは、エルサレムで神殿に起こることを知り、耳にします。

「おお、神は決してそんなことはなさない。私たちは神の民だ。これは神の神殿だ。これは神の都だ。そんなこと起こらない。彼らに耳を傾けるな。」

おお、そうですか？ いいえ、それは起こります。その当時、それが起こりました。エゼキエルは、これから直面する全て彼に立ちはだかる全てに直面しても、揺るがず、強く立ち向かえるよう、神からしか得られない力を必要としています。神は、彼がこれを必要とする前に、彼を強めるために、このすべてを与えておられます。神は、私たちの人生において、そのようにしてくださいますね？ 神は初めから終わりをご存じだから、神は、あなたの人生に何が起きるのか知っておられます。神は、私たちを本当に愛しておられ、私たちが準備不足になることを望んでおられません。ですから神は、私たちの前を行かれます。なぜなら、神は私たちのために、私たちのために用意されたもののために、私たちが備えて下さるからです。神はエゼキエルの場合の様に、私たちが強めるため、私たちが色々なものを見ることを許されます。つまり、神は私を準備し、何かのために私を育てておられるという感覚の、まさに識別のようなものです。そして、それが起こります。あなたは、「分かりました。今、理解できました。主よ、感謝します。もしあなたが私の前を行かれ、準備して下さらなければ、私は完全に盲目になっていたでしょう。」それは常に比例します。その意味は、神は、あなたに用意されているものに比例して、あなたをそのために備えさせられます。必要な時に必要なものを手にするよう、必要なものをすべて与えてくださいます。親として、自分の子どものためにそうしてあげたいですよ？「あなたにはこれが必要です。」ですから、必要な物を与える。必要になるのが分かっているので、必要な時に、それが持てる。むしろ、必要なのに持っていないよりは、持っていて必要ない方が良いでしょう。でないと私は、無責任になってしまうでしょうから。この言葉は嫌いですよ。恐ろしい響きの言葉のひとつですよ？ そういう言葉の一つが「あなたは無責任だ！」何が無責任？ それって…、まあいいや。どうでしょう。私のために祈ってください。11章1節。

—エゼキエル 11:1—

**霊は私を引き上げて、主の宮の東に面した東の門に連れて行った。…**

ここには沢山の具体的記述があります。エゼキエルは、この土地の地勢を把握していたような印象がありますね。

**…主の宮の東に面した東の門に連れて行った。**

そこには思い出があります。すみません、補足的に言いますが、エゼキエルの代弁です。それで彼は東門に連れてこられました。ああ、エゼキエルが回想してるのを想像できますか？

「ああ、覚えてるよ。これ、ここは私の懐かしい場所だよ。」主の宮の東の門。東に面してるから東の門なんですよけど。私は、節を読んだのですよ。いや私は…、違いますって。(エゼキエル 11:1)

**…見よ、その門の入り口には二十五人の者がいた。…**

これらの人を覚えてますか？ (エゼキエル 11:1)

**…そしてその中に、民の長であるアズルの子ヤアザンヤと、ペナヤの子ペラテヤがいるのを私は見た。**



これ見てください。

—エゼキエル 11:2—

主は私に言われた。「人の子よ。この者たちは、この都でよこしまなことを謀り、悪いはかりごとをめぐらし、

—エゼキエル 11:3—

『当分、家を建てなくともよい。この都は鍋であり、われわれはその肉だ。』と言っている。

言い換えれば、「我々は鍋の中の肉として保護されている。誰も我々に手が出せない。我々は無敵なんだよ。なあに、それは近くないし起こらないだろうよ。」

それは預言的類似点ではありませんか？ この預言的類似点はどのように断言されるのでしょうか？ これは、さっきお伝えした神の裁きは、まず神の家族の中から行われるという話に通じます。こんにちの牧師たちは、基本的に言います。「いや、あと50年か100年はあるね。」本当ですか。「いやいや、近くはないって。い～や、それは起こらないだろうね。」そうなんですか。

「私たちは、ほら、次世代について考えなくちゃいけないしね。」すみませ～ん！ これが最後の世代、選ばれた世代ですよ。私たちがそれです。どうよ？ ええ、いや50年じゃないです。どうやって20年でもいけます？ 10年と言ってもいいでしょう。今から10年、どうやっていけますか？

「牧師さん、あなたちょっと、なんだか日付設定してるようですよ？」いいえ、してません！ 私はしてません！ 意地悪に聞こえたらすみません。だけど、してませんっ！ —(笑)—

理由は、なぜなら、過去10年間だけでも見てください。もしも—し！ &\* \$ %…

ちなみに、それは同等ではありません。次の10年を、過去10年間に重ね合わせることはできません。そうは機能しません。なぜなら速度が増すからです。過去10年間に起こったことは、飛躍的により速く迅速でした。そして、言い方が悪いかもですが、次の10年は、耐えられません。どういう意味か？

まず第一に、「聖書が終わり時にこうなる」と語ることを超えます。聖書は、終わりがどんな様子で、どのようになるかを記述していて、それが今だからです。私は正しいですか？ それが正に今です。

ですから私は、聖書預言には賞味期限、有効期限があると言います。鉄は熱いうちに打てと言います。今、すべてが進行中で、その勢いがあり、全てが整っています。早送りボタンがすでに押されているため、一時停止ボタンを押すことはできません。それは「早送り」しています。そして、さらに10年先へ早送りするなら、聖書が「これが終わりの時、終わりの時点。」と語る時点を過ぎてしまいます。10年だけでも。

さらに一歩進めていいですか？ いいですよ。辿り着くので、心配しないでください。だけど、時計は見ないでくださいね。10年前は、2013年でした。ほー！ ずいぶん昔のことです。10年前は、2013年でした。愛を込めて、謙虚に、修辭的に、聞いてもいいですか？ 2013年以来、どのくらいのことが起こりましたか？

ではそれを視野に入れてみましょう。テクノロジー/技術。2013年の技術だけ考えても、お尋ねしますが…、ああ。2013年に手に入れた電子機器をお持ちですか？ まだお持ちですか？ —爆笑— ありがとう。それが私の質問への答えです。一件落着！ もう充分ですね。あゝ～～

なぜ、あなたに、自分自身にもそれをするのか分かりませんが、私はそうします。だから… 4節 —笑— 一進みましょう。

—エゼキエル 11:4—

だから、彼らに向かって預言せよ。人の子よ、預言せよ。」

—エゼキエル 11:5—

主の霊が私に下り、私に言われた。「あなたは言え。『主はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたはあのように言ったが、わたしは、あなたがたの霊の思いをよく知っている。

— エゼキエル 11：6 —

あなたがたはこの都で、刺し殺された者を増し加え、都の通りを刺し殺されたもので満たした。

— エゼキエル 11：7 —

それゆえ、神である主はこう言われる。あなたがたが街の中に横たえた、刺し殺された者こそが肉であり、この町は鍋である。しかしわたしは、あなた方をその中から連れ出す。

— エゼキエル 11：8 —

あなたがたは剣を恐れているが、わたしはあなたがたの上に剣をもたらず—神である主のことば—。

— エゼキエル 11：9 —

わたしはあなたがたを町から連れ出して、他国人の手に渡し、あなたがたにさばきを下す。

— エゼキエル 11：10 —

あなたがたが剣に倒れ、わたしがイスラエルの国境であなたがたをさばくとき、あなたがたは、わたしが主であることを知る。

— エゼキエル 11：11 —

この都はあなたがたにとって鍋とはならず、あなたがたはその中の肉とはならない。…

神が何をなさったのか分かりますか？ ここで、彼らはこの例えを使っています。当時は「鍋の中の肉と同じように安全」と言ったのです。神は仰います。

「いいえ、そうではありません。あなたがたはそう思いますか？ 本当に？ あなたがたは鍋の中の安全な肉ではありません。いいえ、あなたがたが鍋です。わたしは、肉をその中から取り除きます。

…わたしは、イスラエルの国境であなたがたを裁く。

— エゼキエル 11：12 —

**あなたがたは、わたしが主であることを知る。あなたがたが、わたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを守らず、あなたが周りの国々の慣わしに従ったからである。』**

これは悲しいことに、これらの聖句に隠れているもう一つの預言的類似で、終わりの時の教会が周りの世のようになるということです。それがすべてです。私はしません。できますけどね、お分かりだと思いますが。わたしにはその能力があります。賜物です。しません。でも、これは言います。遠くを見る必要はありません。教会は、世に勝つために世のようになりましたが、世に勝つことはありません。教会が世のようになってるのになぜ世が教会に行きたがるでしょう？ もう一回言わせてください。同じことをちょっとマシに言えるかもしれません。ですから、教会は彼らの周りの異邦人のようになりました。

「私たちは、このプログラムに沿って行動する必要がある。ゲーム性を高め、テンポの良い音楽が必要。常に動き続け、速さを保つ必要がある。関連性を持たせる必要がある。関連性。私たちが関連性を持つために必要さ。探求心旺盛。文化に敏感である必要がある。私たちはトーンダウンして、柔らかくして、そうすると、より円満に、より口当たりの良いものになる。すると人々は来たがるだろ。」

頼むわ〜人が、ましてや木曜日の夜、来たがるとでも思ってるのですか？ 木曜日の夜のテレビ番組知ってます？ Netflixが登場する前です。私は古い人間ですから。「待って。何のため？」ええ、主を心から愛し、ただひたすら賛美を捧げ、人々をシンプルに賛美に導くような、賛美のための心ある素晴らしい賛美リーダーがいます。「待って。バンドと発煙機とストロボライトはないの？」いいえ、ここにはあり

ません。「わお〜。」それなら、ある男がいて、そう、この男は大変で、彼は壇上に上がって、延々と旧約聖書を説くんだ。旧約聖書を知ってますか？ 旧約聖書の特徴は、古いことです。ー(笑)ー

「頼むわ〜3章も？ うん、いや、私には向かない。そんな気分にならない。」お〜マジ？ で、牧師は、純粹に気の毒だと思います。彼らのプレッシャーを知っているからです。彼らは、神の御言葉の力を信じられなくなり、世にとって魅力的でありたいという旗印の下、他のあらゆる仕掛けに頼り、世と同じようになり、世に対して敏感になります。すると世は、

「なぜわざわざ？ 違いはないし、対比はないし、あなたは世とあまりにも同じ。神は私に世から離れなさいと仰ってるのに、あなたは私をその中に戻すの？」

因みに、、、教会が世と競争しようとする、そうはいかなくなります。これは私の、個人的な問題、私の問題で、主と私の間の事です。皆さんにオープンに言います。私は、悪魔のハリウッドに対抗しようとする映画には、本当に問題があると思います。結局のところ、良いことよりも悪いことの方が多からずです。演技はひどいものです。失礼ながら。ひどいです。あなたは、、、待って、あなたは、、、いや違う。なぜただ御言葉を説かないのですか？ 彼らのようにするのは止めて下さい。周りの異邦人のように、彼らのすることに従おうとするのは止めてください。そう、それが世のする事です。それをしないでください。なぜ、そんなことをしたいのですか？ あなたは沈んでいっています。あなたは台無しにしています、冒涇しています。冒涇の意味を知っていますか？ 一般化するという意味です。あなたは低レベルに落とし込んでいます。それが冒涇です。一般化しています。神聖で、聖なるものを。

最後のひとつ。有名な最後のセリフ=最後のひとつ。繰り返しますが、私はプレッシャーを知っていますし、私はそれが無いのじゃありません。牧師としてのプレッシャーに押し潰されていますよ。特に、私たちが生きている今の時代。これを黙認し、信頼を失ってしまう。知っていますか？ 私はただ手に鋤をかけたままです。私は、御言葉を宣べ伝えます。私は、神の御言葉に忠実でい続けます。

神の御言葉は、空しく帰ってくることはないからです。(イザヤ 55:11 参照)

私は気にしません。私はエゼキエルかもしれないし、エゼキエルの前に終わった書はどうですか？「哀歌」(ひ〜)「それって書なのですか？」はい。「民数記」はどうですか？「何についてですか？」お、数字です。聖書の中で、最も魅力的な書の一つです。あなたは、神の御言葉と御言葉の神を信頼し、神のなさることをしていただくのはどうですか？ 神の御言葉がいのちだからです。あなたが神を助ける必要はありません。ただ御言葉を宣べ伝える。獅子を宣べ伝える。時計が嫌い。天には時計はありませんよ。それ知ってますね？ 理にかなっているでしょ？だって永遠だから時間はない。天では、誰も時計がありません。それだけでもね。(エゼキエル 11:11) この都はあなたがたにとって鍋とはならず、これ、もうしましたっけ？ しましたね。...あなたがたは...これしましたよね。OK。ではなぜ私は、後戻りするのでしょうか？

#### ーエゼキエル 11:13ー

**私が預言していたとき、ベナヤの子ペラテヤが死んだ。それで、私はひれ伏して大声で叫んだ。「ああ、神、主よ。あなたはイスラエルの残りの者たちを滅ぼし尽くされるのでしょうか。」**

このエゼキエルという青年の感情を取り入れたかった理由のひとつは、彼はこの人たちを知っていたからです。ここは、彼の古巣だけでなく、これは彼の友人です。エゼキエルは彼らを知っています。それがどれだけ辛いことだったか、想像できますか？ あえて言うと、エゼキエルは、ベナヤの子ペラテヤを知っていました。彼が死ぬ？ エゼキエルが泣くのは当然です。

「主よ。あなたはイスラエルの残りの者たちを滅ぼし尽くされるのでしょうか。」

—エゼキエル 11:14—

そのとき、次のような主のことばが私にあった。

—エゼキエル 11:15—

「人の子よ。エルサレムの住民は、あなたの兄弟、同胞、あなたに買い戻しの権利がある親類の者たち、またイスラエルの全家のすべての者に対して、こう言った。『主から遠く離れよ。この地はほかでもないわれわれの所有地として与えられているのだ。』」

—エゼキエル 11:16—

それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしは彼らを遠く異邦の民の中へ移し、国々の中に散らした。しかし、わたしは彼らが行ったその国々で、しばらくの間、彼らの聖所となっていた。』

15節のこれを見逃さないでください。彼らはこう言いました。「主から遠く離れよ。」「エゼキエルよ。わたしは彼らにわたしを強いません。わたしは、完全に彼らを終わらせるつもりはなく、わたしは彼らが行ったその国々で、しばらくの間、彼らの聖所となっていました。わたしが自分の民を見捨てる事はありません。彼らがわたしを捨てたのです。彼らがわたしに背を向けたのです。」

—エゼキエル 11:17—

それゆえ言え。『神である主はこう言われる。わたしはあなたがたを諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。』

—エゼキエル 11:18—

彼らがそこに来るとき、すべての忌まわしいもの、すべての忌み嫌うべきものをそこから取り除く。

う～待ちきれません。それが起こったのですか？ それが起こったと信じた方が良いです。

—エゼキエル 11:19—

(それから)わたしは彼らに一つの心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らの中からだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。

—エゼキエル 11:20—

こうして、彼らはわたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行う。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。

「エゼキエルよ、これが、わたしがずっと望んでいたことです。わたしは彼らを回復させたい。」

これは、患難時代の終わりに、神がイスラエルを回復させる結末を指し示す、壮大で預言的類似点です。主はイスラエルを回復させられます。イスラエルの全家は、イスラエルの家族は、患難時代の終わりに救われます。神が彼らを回復なさる時、「彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。」

「エゼキエルよ、これが要点です。わたしは彼らと、永遠の契約があります。」

永遠の契約をご存知ですか？ ええ、意味深ですけど、永遠に続く契約です。永遠に。それが契約です。神はご自分の民との契約を破る事が御出来になられません。一部の人が信じているように、神はユダヤ人を見捨ておられませんよ。それは、置換神学と呼ぶ、教会がユダヤ人に置き換わって神の民となるという非常に悪魔的な教え、偽りの教えです。それをしないでください。どうりで、患難時代を経験すると言うのですね。ユダヤ人に置き換わるなら、患難時代の目的は、ユダヤ人国家の救いですから、だからあなたは、患難時代を経験するのですね。ですから、置換神学の偽教師たちは、患難時代前携挙について決して語らないし、教えないのです。彼らには教えられません。彼らの曲解した神学に合わないからです。



彼らは終末論を曲解し、偽の預言的プレツツェルにしました。お、今の表現はなかなかでしたね。カポノ、メモを取っておいてね。良いのか分かりませんが、プレツツェル。泣いて、ため息。やりすぎですね。

—エゼキエル 11:21—

しかし、忌むべきもの、忌み嫌うべきものの心を、自分の心として歩む者には、その行いを頭上に返す—  
—神である主のことば。」

彼らの選択です。「あなたがたが仕えようと思うものを今日選ぶがよい。私と私の家【私の家族】については、主に仕える。」(ヨシュア 24:15)

「あなたの選択です。わたしは、あなたに自由意思を与えています。わたしの御心をあなたに強いるつもりはありません。ですから、あなたの選択です。」22節、エゼキエルが続けます。これは彼の帰りの移動の幻です。

—エゼキエル 11:22—

するとケルビムは翼を広げ、輪もその横についた。イスラエルの神の栄光がその上の方にあった。

—エゼキエル 11:23—

主の栄光はその都の中心から上って、都の東にある山の上にとどまった。

—エゼキエル 11:24—

霊は私を引き上げて、幻のうちに、私をカルデアにいる捕囚の民のところへ、...

今回、少なくとも主は、エゼキエルの髪は掴まれませんでしたが。いや、バビロンからエルサレムへの旅では髪を掴まれ、引き上げられましたから。「さあ、行こう！」今回は、ただ引き上げられました。分かりませんが、髪が抜けたのかもしれないね。いやいや。

...神の霊によって連れて行った。

今、バビロン捕囚の人々のところへエゼキエルは連れ戻されます。

...そして、私が見たその幻は、私から去って上って行った。

—エゼキエル 11:25—

私は、主が私に示されたことをことごとく捕囚の民に告げた。

誰のことを言ってるのか？ そう、エゼキエルは戻ってきて、長老たちと一緒に座っています。覚えていますか？ 彼は家の中で友人たちと一緒にいました。彼は(エルサレムへ)連れて行かれ、これらのものをすべて見せられたのです。今、彼は(バビロンへ)連れ戻され「主が私に示されたすべての事」を、彼らに話すことになりました。最後の預言的類似性で終わります。それは終わりを示し、聖書預言について話し、教えることの最重要性を語ります。それだけで、もう1時間くらいは続けられそうですよ。しませんよ。その希望はあります。でも、ひとつ別のことがあります。教会を叩いているように聞こえなければいいのですが、全くそんなつもりはありません。でもこれは、教会への告発です。皆さん信じられないでしょう。これで締めくくりますね。私たちが日常的に受け取る大量のメールやコメントを、皆さん信じられないでしょう。こう言っても過言ではありません。毎日届くメールやコメントは1000件以上です。その中で、何%の人がこういう趣旨のことを言っているか知っていますか？「誰も聖書預言の話をしません。」(は～～?) (は～?ひ～?へ～?) —(笑)— ええ、彼らは、あと50年はあると思ってるんだと思います。ですから、冷静になって、落ち着いて、事を運ぶ。「ここに見るべきものは何もありません。」見るべきものはない? すみませんが、聖書預言が猛烈なスピードで成就している時に、聖書預言について語るつもりはないのですか? どうなっているのですか? 皆さん、主は、、今までも、なされる時

は、いつも恵み深く、お優しく、主は私の心を落ち着かせて下さいました。前にも話しましたが、それは私の責任ではありません。それは私の責任ではありません。

「あなたに何の関わりがありますか。」(ヨハネ 21:22)

ペテロが、イエスがヨハネに何かを話したことに怒っていたときで、ペテロとヨハネは、愛し合っていたと思いますけど、最初の頃は、この2人には問題があったと思います。ペテロとヨハネは険悪な関係だったと思います。なぜなら、ヨハネの福音書を読むと、彼はなんというか、ペテロをあまり好意的に捉えていません。非常に微妙ですよ。「弟子たちと、そしてペテロは。」いや、本当ですよ。一度だけじゃなくて何度もそう言います。「弟子たちと、そしてペテロは。」それから、よみがえられた日曜の朝のこと、ヨハネは、自分の福音書に、大変はっきり書いています。自分は、ペテロより先に墓に着いたと。分かりませんが、そこに何かがあると言っておきます。「牧師さん、ポイントは何ですか？ 仰った通り締めくくってください。」はいそうします。あなたは、聖書が人類歴史で最も多くのことを語っている時代なのに、それについて語らないのですか？ 神が私を落ち着かせて下さったのは、そうせねばならないのは、それはが継続的になさるプロセスです。キーワード：継続的に

イエスがヨハネに、二人の間で話されたとき、ペテロはそれを聞いていました。ペテロはイエスのところへ行って言います。「どうなっているのですか？」(ヨハネ 21:21 参照)

イエスのペテロへのご返答は？「あなたに何の関わりがありますか。」(ヨハネ 21:22)

この話の中で、ペテロは誰でしょう？(JD 挙手中)

「主よ、彼らは聖書預言を教えていないんですよ！！」「あなたに何の関わりがありますか。あなたは、わたしがあなたにするよう召したことをしなさい。あなたが彼らを心配することはありません。わたしと彼らの間の事です。」

それが私を落ち着かせました。こんな風に、「分かりましたよっ！」「あなたと神との間のことさ、兄弟。」主は仰いました。「あの人たちとの間の問題です。」しかし、いや、とにかく締めくくった方がいいです。自分にも多くのトラブルが起きてしまいそうです。もうトラブルにいますけどね。カポノ、上がってきてください。皆さん、ご起立ください。皆さんの恵みとご忍耐に感謝します。皆さんは、私に大変お優しく、ご忍耐下さいます。多々ある私の性質に。

天のお父様。ありがとうございます。わお～、わお、わお、わお 主よ、今夜の箇所には多くがあります。間違いなく、今の世で起きていることすべてに類似していますし、当然です。間違いなく、今の世で起きていることすべてに類似していますし、当然です。主よ、私たちがこのことを心に留め、心に刻めるよう祈ります。そして、主よ、強いて言えば、聖書預言と、私たちが今生きている終わりの時が、より明確にフォーカスされるよう祈ります。当時の彼らの終わりの時と共通する類似性の見え方が、今のこんにちであることに。主よ、ありがとうございます。エゼキエルに示されたことを、私たちに示してください。感謝します。それで私たちは、何が起こるのかが分かります。何よりも、エゼキエルに与えた影響は、私たちにもあるはずで。その効果は、エゼキエルが愛するエルサレムや仕えるはずだった神殿をようやく手放すことができた事です。主よ、それが私たちに効果を与える影響でありますように。私たちはこの世、この世のものを手放します。ここにいるのはもう長くないと知っているからです。私たちが、強く執着することがありませんように。ここは私たちの家じゃなく、通り過ぎていただけだからです。主よ、今夜、その大変必要な注意喚起をありがとうございます。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7